

北陸こども環境セミナー座談会

小澤先生を囲んでの勉強会にて大いに楽しむ

富山において、2013年10月19日(土)16時から2時間ほど、こども環境学会会長小澤紀美子先生をお招きして「子どもの育ち環境」をテーマに参加者12人で先生と楽しく座談会を行いましたので、ここに報告します。

最初に、参加者の自己紹介を兼ねて各自から話題提供し、小澤先生のお考えを聞くといったスタイルで座談会を進めました。

各参加者からは、子どもと建築、絵本語り、自然遊び、健康と薬、DV、女性視点などの話題がありました。特に面白かった話題をいくつか以下に列挙いたします。

(1)子どもが遊べる場がもっとあって欲しいという話から、ミニミュンヘンやキッザニアの話題話が出ました。キッザニアは「ごっこ遊び」的であり、ミニミュンヘンは社会体験という意味合いがあるのではないか、とのことでした。

(2)小学校に子どもを通わせている親御さんから、「学校では、児童の教師への発言の際に挙手を力強くしたいが、手は中程度の高さで声も中程度にと規制されています」という話から始まって、今流行のオープンスクール方式(教室と廊下の壁を撤去したつくり)の学校について議論いたしました。

建築家は、天井と教室間仕切壁の防音性能を高めることでクレームに対処していたのだが、最近にな

ってようやく教室と廊下の中に可動式の壁を入れるようになりました。以前から隣の教室がやかましいという子どもや親の意見がようやく(行政も含め)建築家に届き始めたとのことでした。

(3)自然にふれさせる子育てを実践されているお方が「自分の周りを見渡すとそんな方がおられないのが気にかかる」と発言されたのを受けて、先生は「教育も子育ても何もかも、子どもにかまいすぎ」、「子どもはもっとのびのびとさせなければ」とコメントしていました。

(4)何か事あると「学校の責任」といつてくるクレマーがいるという話について、そうした方々には物事の道理をしっかりと説明することが必要であり、もめごとに関わらずとか長いものにまかれろというのでは根本的な解決にはなりません、とのことでした。

今回は、福井で街づくりのWSを早々に切り上げて来られた方や、お子様連れでの参加の方もおられ、多彩な面々で先生と膝詰めで座談を大いに楽しむことができました。

